

令和5年度学校評価報告書

学校名（宮島小・中学校）

評価計画					自己評価				コメント	改善方策				
中期経営目標	短期経営目標	取組のめざす姿	評価項目・指標	目標	中間月	最終月	達成	評価			結果と課題の分析			
小中一貫教育のよさを最大限に生かす学校運営	4・3・2制のメリットを生かして、9年間で育てる。	自治活動能力を育成するために、ブロック活動（ブロック朝会、ブロックごとの行事）を充実させる。	「ブロック目標を達成することができた。」と答えている学園生の割合（4、7、9年）	80%	前期 100% 中期 68.8% 後期 86.2%	前期 100% 中期 100% 後期 100%	125	A	【前期】 2学期は、ブロック目標の焦点化を行い、目標に合わせた振り返りを定期的に行うことで1学期よりもブロック目標をさらに意識して生活し、それを実行している児童が増えた。そのため、児童の意識と教員の見取りのズレも埋まった。 【中期】 学園生が企画運営を行う、ブロック朝会と屋レクを継続し、全員が活躍できる場を設定したことがブロック目標の達成につながったと考える。 【後期】 2学期は指導の継続を意識し、常にブロック目標（立ち止まり挨拶・文化継承・指示出し・振り返り）について言及してきた。3学期のアンケート結果によると、肯定的評価が高かった。今後（8年生）の課題は、学園以外の人と関わる際、交流を持つとする生徒が少なく、社交性欠けることが判明した。このことから、学園外でのコミュニケーション力を鍛える必要がある。	ブロック活動や縦割り班での活動を効果的に仕組むことは宮島学園ならではの良さである。子どもたちのコミュニケーションの力を身に付けさせるために、今後も新たな工夫を取り入れながら継続して行ってほしい。	【前期】 レクリエーションの企画・運営やブロック目標から自分たちの課題を見つけブロック目標を達成できるための企画をすることで4年生の主体性が育っている。前期ブロックでは基本的な生活習慣の基礎を作っていく。 【中期】 目標を達成できているのに自己評価が見合っていない学園生がいるため、かみぼっている姿を教員が肯定評価したり、学園生同士が認め合えたりするような声掛けをしりする。 【後期】 8年生の課題は、おもてなしの「する側」意識は高いものの、される側に入った場合も「感謝の気持ち」を示す、具体的にはおもてなしを受けたときは反応するなど相手への配慮が欠かせないことを意識させる必要がある。また、学園生以外の人と能動的に関わる姿勢も見られなかったため、機会を設けて、同年代の生徒と交流できる「社交性」を培い、スキルを身に付けるとともに、他校の同年代と交流する取組につなげる。			
			「ブロック目標を達成しよう」と意識することができた。」と答えた学園生の割合（1、2、3、5、6、8年）	80%	前期 87.0% 中期 84.0% 後期 77.5%	前期 100% 中期 100% 後期 100%			125			A	・教室に掲示している話型をもとに発言させ、良い見本を示すことができた。 ・教科の学習以外でも、ブロック朝会の司会やレクの企画・運営などを通して、全体を見る力や流れを組み立てる力がついた。 ・振り返りを1枚のポートフォリオで実施したことが、次の活動を意識させることにつながった。学園生も教師も意識して取り組むことができた。 ・職員室にこれまでの取組を掲示したことで教師間の交流につながり、指導口活かされた。	生活科や総合的な学習の時間で学習したことや練習したことを地域で披露したりしてきてくれた。他地域と比較したりして宮島の将来を考えて行ってほしい。
地域の財産（歴史、文化、自然）を学ぶ教育体系の確立	自己の将来、宮島の将来を考える力を育てる。	生活・総合的な学習の時間の授業で、地域の教材をもとに考えたことを、ICTなどを活用して自分のことばで表現させる。	「自分が伝えたいことを筋道立てて伝える力がついた。」と答えた学園生の割合	70%	82.9%	86.1%	123	A		・振り返りを1枚のポートフォリオで実施したことが、次の活動を意識させることにつながった。学園生も教師も意識して取り組むことができた。 ・職員室にこれまでの取組を掲示したことで教師間の交流につながり、指導口活かされた。	生活科や総合的な学習の時間で学習したことや練習したことを地域で披露したりしてきてくれた。他地域と比較したりして宮島の将来を考えて行ってほしい。			
			「授業の振り返り」を通して、次にやりたいことを見つけています。」と答えた学園生の割合	70%	74.4%	83.7%			119			A		【基本的な生活習慣の確立】 ・ブロックごとにあいさつの仕方の目標を明確にしたことにより目標に向かって前向きに取り組むことができた。 ・児童生徒会長が「あいさつのできる学園生がたくさんいる学校にしたい」と学園生に伝えるなどあいさつの意識付けがきている。 ・保護者の評価が87%と学園生に比べ低いことから校内ではあいさつをすることができるが、校外では今一つであるため、あいさつの必要性について考えさせる必要がある。 【多様な価値を受け入れ、認め合える集団づくり】 ・相談体制について肯定的な評価をしている学園生は93.5%、保護者は95.1%と多く、相談体制を充実させていることが安心して過ごすことのできる学校につながっていると考える。 ・安心して過ごすことができると回答していない学園生と「歩く会」でとり上げている学園生は概ね一致していた。
多様な学園生の育ちの場の提供	基本的な生活習慣（あいさつ）の確立をさせる。	発達段階に応じた行動目標を児童生徒に提示し、その姿を日々評価する。	「あいさつは、自分から進んでします。」と答えている学園生の割合	90%	89.9%	96.7%	107	A		【基本的な生活習慣の確立】 ・ブロックごとにあいさつの仕方の目標を明確にしたことにより目標に向かって前向きに取り組むことができた。 ・児童生徒会長が「あいさつのできる学園生がたくさんいる学校にしたい」と学園生に伝えるなどあいさつの意識付けがきている。 ・保護者の評価が87%と学園生に比べ低いことから校内ではあいさつをすることができるが、校外では今一つであるため、あいさつの必要性について考えさせる必要がある。 【多様な価値を受け入れ、認め合える集団づくり】 ・相談体制について肯定的な評価をしている学園生は93.5%、保護者は95.1%と多く、相談体制を充実させていることが安心して過ごすことのできる学校につながっていると考える。 ・安心して過ごすことができると回答していない学園生と「歩く会」でとり上げている学園生は概ね一致していた。	学園生がよくあいさつしてくれるからうれしい。児童生徒会の目標もなっているということなので、これからも取り組んで行ってほしい。		【基本的な生活習慣の確立】 ・あいさつのできる学園生には声を出すことに慣れさせる必要がある。例えば、授業中に「OOしましょう。」と言われたら必ず返事をさせるなどの取組を行う。 ・あいさつの必要性について考えさせる必要がある。例えば、「何人にあいさつできるかデー」を設けあいさつを習慣づけたり、気持ちの良いあいさつをしてもらおうとどんな気持ちになるか、あいさつの大切さに気付かせたりする。 【多様な価値を受け入れ、認め合える集団づくり】 ・引き続き相談体制を充実させる。 ・「歩く会」などでスクールカウンセラーなどの専門家と連携し、困り感を感じている学園生に対する具体的な支援方法や効果的なアプローチの仕方を考え、取組の方向性を明確にしたうえで、教員全員に周知する。	
			「宮島学園は、安心して過ごすことのできる学校です。」と感じている学園生の割合	90%	94.6%	91.0%			101			A		タイムマネジメントを意識することで、「時間に余裕をもって業務することができた」と感じている教職員の割合
ワークライフバランスのとれた元気な職場	目的やスケジュールを意識することで、組織的な取組を実施する。	目標達成に向け、行事のスケジュールを意識し企画運営委員会、分掌会及びブロック会を計画的に実施し、状況を共有する。	「宮島学園で働いてよかった」と感じている教職員の割合	90%	94.5%	89.4%	99	B		・タイムマネジメントを意識することで、「時間に余裕をもって業務することができた」と感じている教職員の割合は63.1%と前回よりも13.1ポイント上がった。 ・「宮島学園で働いてよかった」と感じている教職員の割合は89.4%と前回よりも5.1ポイント下がった。	徐々に学園生の人数が増加していて先生方の負担が増えていっていると聞いた。地域行事などできることはどんどん協力・支援するので情報を提供してほしい。		・進捗管理表を配布したり、事前は何をすべきかのシートを各部の主任主事やリーダーに用意したり、スケジュール表に提出物を入れ意識させたりして会議に臨むことができるようになった。今後は、起案する日を入力させたり、総務部の計画も周知することをしたりして学校全体がどのように動いているかがわかりやすくなるものに改善していく。 ・教職員の働きやすさは同僚性を高めることであり、困ったときに困ったとアウトプットできること、困っている人に気づき、支援できることが大切であると研修で気付かせ、意識の変革を図った。今後は宮島学園に勤務したことで経験できることなどを実感させる働きかけを続ける。	

※ 「評価」の項目については、「達成度」は「報告期の数値/目標値」である。
「目標値」に対する「達成度」をA～Dで評価する。(A:100% B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満)
逆数項目の評価については、A(目標値以下)B(目標値～前回数値)C(前回数値より悪化)とする。